

令和2年度第3回坂戸市市民参加推進会議（書面審議）実施結果

【実施日】令和3年3月12日

【参加委員】6名

審議事項

1 答申（案）に対する各委員からの意見

意見等
<p>令和3年1月11日付け「平成30年度市民参加実績等に対する意見書」にて提出した小生の意見を取り入れておりますので、会長の答申（案）に賛同いたします。</p>
<p>特になし</p> <p>【令和3年度提案型協働事業募集要領について】</p> <p>P5の「審査項目」の各文章の表現がキツク感じてしまいます。これが応募に前向きでなくなるのではないかと思い、周りの人に話しましたところ、補助金をあまり出したくないため、このような表現でしようがないでしようと言われました。</p> <p>以下の取組みを参考にされてはいかがでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none">・嬉野温泉バリアフリーツアーセンター・給水アプリ 無印 マイボトルでゴミ減らし（ペットボトル）
<p>答申案の内容に関してはおおむねその通りだと思えます。 ここに若干の意見を述べます。</p> <p>2（1）公募員の募集方法について</p> <p>特に若い人たちは紙媒体よりネットの方に慣れ親しんでいるように思うので、直接ホームページなどでも情報提供と募集を行った方が良いと思う。</p> <p>しかしながら、公募委員に対する応募が少ない根本的な理由として、委員に手を挙げる余裕のある人が困っている人と接触が少なく、その存在、あるいは市の政策によって解決すべき問題の存在に気が付かないというのものもあるように思う。つまり、積極的な市政への参加の意義を感じられないかもしれない。それに関しては、市内の状況を一番よく知っている市役所が積極的な情報発信をすることが大切だと思う。</p> <p>さらに、審議会はたくさんあるが名称のみではその具体的な内容、話し合いのレベルが分からず、部外者には積極的に参加しようという気持ちが起きにくい。特に今までこのようなことに関わってこなかった人たちには、意味のある意見を述べる自信も持ちにくい。</p> <p>経験から、各種の委員に参加する意義には、（市民に対する）教育的な意味が大きいと思うが、それには年1回の会議は少なすぎる。また会議のその場で発言できなくとも後で思いつくこともあり、それを表明する機会があっても良いと思う。その意味でも複数回の開催が望ましい。</p>

2 (2) 市民コメントの募集方法について

市民コメントが少ないというのは必ずしも悪いわけではないと思う。おおむねよくやられているという承認の場合もあるのではないか。例えば、もし「さかっちバス」を廃止するとなればコメントが多く寄せられると思う。

3 (3) 「提案型協働事業」の促進について

コロナなどの場合にオンラインでの代替に関しては、受け手側の環境整備がまだ不十分であり、もう少し時間がかかると思う。

また、行政提案型協働事業に関しては、市が市民の協力を期待する問題に関して具体的に説明することが大切だと思う。それによって、これなら自分にもできるのではないかと考える市民が出てくるかもしれない。しかし、その時に一番大切なのは支援が終わった段階でも経済的に事業を継続できるのかという問題である。福祉関係は利益が出にくく、人件費は無しでも雑費は必要である。その辺の見通しを立てるのはとても難しいと思う。

市民参加の推進には、答申案にあるとおり、情報の積極的な提供と、参加希望者が参加しやすい環境づくりが必要です。そして、多くの情報を市民と共有し、市民の市政に対する関心を高めることにより、多様な市民参加が実現するのではないかと思います。

また、職員一人ひとりには、市民参加の意義を踏まえ、市民の声を市政に反映させるべく、情報提供や市民参加のあり方など、さらなる研鑽に努めてほしいと思います。